

中央大学公式ホームページの活用法

中央大学公式ホームページ <http://www.chuo-u.ac.jp/> 内の「見えるデータベース」「データで見る中央大学」「動くデータベース」「早耳クリップ」を活用して母校の情報を楽しくみてください。

「見えるデータベース」キャンパススナップを活用

大学の四季の風景やキャンパススナップを楽しんでいただく目的で「見えるデータベース」を公開しています。このデータベースは、学内関係者だけでなく多くのユーザー、特に卒業生や在学生、ご父母の方々などに利用していただくことを目的としています。自分のホームページやパソコンの壁紙などへご活用できます。データの数も、現在のところ一般公開用として1300枚程度、順次追加しますのでおおいに活用してください。

「データで見る中央大学」で中大の基本方針を確認

「データで見る中央大学」には、学生・教員数・財政情報等、研究活動、資料情報・データベース、出版・刊行・発行物、など中央大学に関する様々なデータが公開されています。【学生・教員数・財政情報等】内の「平成14年度中央大学の収支予算について」には予算の概要表や解説だけではなく「予算編成の基本方針」としての『世界に人材を輩出する、開かれた最高水準の大学を目指す重点施策』や『大学評価システムの確立とそれへの対応』など中央大学のグランドデザインともいえる事項が掲載されています。

「動くデータベース」で教養番組『知の回廊』を楽しむ

教室を飛び出した大学

21世紀はクリエイティブな映像の時代。デジタル技術の発展とともに、見るだけの映像世界から参加する映像世界へ、

意識の変革も踏まえて大きく時代が変わろうとしています。勿論、大学における研究教育活動においてもこの変化は大きな波となって押し寄せています。そこで中央大学では、映像技術の専門家である八王子テレメディア株式会社と共同で、地域に根ざした教育番組を制作し、昨年からの放送を開始いたしました。

なお、現在は八王子市、日野市、立川市、多摩市などに放送されておりますが、同番組は中央大学のホームページ内の「動くデータベース」からも視聴できるようになっております。現在13本の番組が用意されておりますので是非ともご覧下さい。

「早耳クリップ」で中大に関する耳寄りな情報を発信

早耳クリップは、2002年4月1日より開始した、まったく新しい試みで、皆さん(在学生、OB、OG、教員、職員、父母、企業、一般の方)からの中央大学に関わる情報を受け取るクリップボードです。このボードは、皆さんが入手した中央大学に関わる貴重な情報(例えば：卒業生の活躍、学内で埋もれてしまっている情報、中大に影響を及ぼしそうな社会的情報など)をはじめとして、多少不確かな噂話に至るまで受け付けています。ただし、いただいた情報への返信は致しませんので、質問事項や意見を求めるような情報提供はお断りいたします。

現在のジャンル以外も大歓迎です 原稿・写真をお寄せ下さい

次回発行予定 9月上旬(原稿の集まり方次第で変更の可能性あり)

<原稿送り先、方法> 電子メールか封書で

〒264-0006 千葉県若葉区小倉台2-2-6

山下史雄(やましたふみお)宛

電話 03(3740)2588 ←職場の電話番号です

(不在の時も多々あります)

E-mail fum@mtc.biglobe.ne.jp ←ここで原稿受け付けます。

FAXでの受け付けは申し訳ありませんが、行っておりません。

次回原稿締め切り 2002年8月25日(日)

いずれも氏名、学部・学科、連絡先を明記して下さい。

原稿は出来れば電子メールで送って下さい。添付写真の形式は

jpegをお願いします。手書きの場合は封書をお願いします。

費用や時間の関係上、原稿・写真の返却は出来かねますので、ご了承下さい。大切なものは、複製の方を送って下さい。

健康法



法法 石川賢次

いつごろからか、健康について関心をもつようになってしまった。そういう歳になったということであろうか。

ここ2年続いて冬は風邪に悩まされた。基礎体力の低下か...。意識するしないにかかわらず、体は確実に老化への路を歩んでいることを実感させられた。

そこで少しでも老化、体力の低下を遅らせるべく健康法ということになる。

健康法などというものは一朝一夕にできるものではない。近時、雑誌等に「私の健康法」、「健康法」といったものをよく見かける。気の向いたものは読んでみるが、「これ」といったきめ手にはならない。自分に合った健康法とは、それぞれが考え行のがその人の健康法となるのかもしれない。

足腰の健康とともに、頭の健康もそれなりに維持したいものである。できることなら「より健康に、より強力なものへと」したい。記憶力は歳とともに衰えるといわれているが、事実であろう。これには、衰えを遅らせる健康法があるのだろうか。確かなことはわからないが、「活字に親しみ、そして思考を巡らす」。

世は映像の時代で、活字からは遠のきがちではあるが、つとめて読み、書き、そして思考する。フッと数十年も前の「意義、要件、効果」等といった言葉が浮かんでくる。論理的思考、頭の体操も怠りなく、体と頭と心の健康法をなんとか身につけたいものと思っている。

現代は「晴耕雨読」というようなのんびりとした時代ではないかもしれないが、高齢者が増加していくこの時代には、「健康法」はだれにも必要なものとなってくるのかもしれない。